

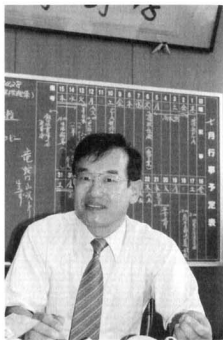
■「稲穂」インタビュー／坂巻道弘学校長に聞く  
**先生方が燃える、  
生徒たちが燃える**  
**現役合格率八七・五%を支えるもの**

**真面目で素直でいい子たち**

——久し振りに母校に來まして、まず驚いたのが、女子生徒の多いことですが……。

坂巻 そうですね。もともと生徒の数が多かった私たちの頃は約一割が女子生徒でしたが、今は、全校で男子が四九五名、女子が四三三名ですから、四七%が女子生徒ということになります。この長野県でも、二五年くらい前から男子校、女子校という区別がなくなりました。これは長野高校でも松本深志でも諏訪清陵でも伊那北でも、多少の男女比率の違いはありますが、同じ傾向です。——では、すいぶん様変わりしてきたのではないのでしょうか。

坂巻 それは変わりました。もう、どこの学校でも女子が四割を超えれば、女子の方が断然多く見えます。わが



坂巻道弘学校長

校でも、もう女子が仕切っていますね。「行動力」は女子生徒の方があるんじゃないですか。「誰か、ボランティアに行かない？」と言われても、男子が率先して行くということはまずないですね。女子が先に行って、それなら行きましょうか、というような雰囲気ですね。

——それでは校風も変わってきたと思います。一口に言って今の飯田高校の校風、気風はどのようなものですか。

坂巻 大変真面目で素直でいい子たちだということですね。もちろん、飯田高校百二十余年の歴史の中で培われてきた「遠大進取、質実剛健、自主自立、自治協同」といった建学の精神は底流にはあると思いますが、パンカラという気風はもうまったくないです。茶髪などはほと



正面玄関の前に置かれた独立100周年記念の「赤石」

んどいませんし、みんな今風のものを着ていて、結構おしゃれをしています。いわゆる腰に手ぬぐい、破れた帽子などはありません。ある面では寂しいとも思いますが、こういうのが今の時代なのかと。

かつては自由な気風がありました。もう世の中が高校生に対してそれを認めないのかも知れませんが、飯田高校の生徒なら「まあまあ」ということもあったでしょうが、今は、飯田高校の生徒だからこそ、きちっとすべきだという……。私たちの頃のように大目に見てくれるということではなくてきていますね。

それに勉強と部活動の両立ですね。これはきちんとやっつけてほしいと思っています。野球部も三年生が二十数人、最後まで辞めずに残っています。そういう真面目な部分、一度やり始めたら最後までやるということが残っ

ていて、これは嬉しいですね。

”学校が動いている“

——その勉強についてですが、今年はいいい成績を残しましたね。

坂巻 ええ、現役の合格率が八七・五%。これは県下でもトップで、この数字自体、進学校として驚異的な数字なんです。でも、数字がどうかよりも、その数字が出たことによって、そこまで頑張ってきた生徒たちや教職員が満足できるところまで行けたかなあという気がするんです。数字はあくまでもその結果だということです。

——その数字を支えているものは何だと思えますか。

坂巻 “学校が動いている。”という気がします。前向きにね。先生方が前向きに取り組んでくれているということです。教職員の仲が非常にいいですね。仲がいいということとは意思疎通ができていくということです。教職員が一つになって何かをしようとしている……。これが大きな特徴であるし、わが校の一番いいところかなと思っています。

その原動力の一つとなっているのが、教務担当の先生が発行する教務通信「精華」です。学校の中で何が起きているか、生徒の様子はどうか、先生たちの様子はど

か、一日に二通、三通出ることもあります。すべての教職員が共通の情報を持つということと、学校の中がよく見えるということ。これが学校を活性化させています。

県内の他の高校でこのようなことをやっているところはありますか。これが今、飯田高校が動き始めている原動力になっているんです。

——昔は個性的な先生がいっぱいでしたが……

坂巻 そうですね、あの時代はそれでよかったです。ところが、今はそれでは成り立たないですね。今は教職員が一つにまとまって何かをしようと。生徒のために何ができるのかということを常に念頭において対処してくれています。授業開放もそうです。「授業、見せてもらいますよ」と言っても誰も嫌がりません。「ご自由にどうぞ」と。この結束や授業に対する自信は他高からうらやましがられているほどです。

### 土曜日に「高松塾」を開講

——その一つだと思いますが、「高松塾」というものが行われていると伺いました。もう少し詳しくその内容を教えてください。

坂巻 ご存知のように、この飯田には予備校がないんですね。もっと勉強したいのに勉強するところがない。そ



毎日発行されている「精華」

TAの方々にも大変御世話になっています。

今、週五日制になりましたので、土曜日、日曜日は原則として学校は休みなんです。公立の学校は文部科学省の管轄下にありますが、土・日に授業をするわけにはいきません。ところが私立の場合は文科省の管轄外ですから、土曜日でも日曜日でも授業をしようと思えばできるわけです。それで、少なくとも土曜日くらいは何かしないと、私立の高校に遅れてしまうだろうというのが始まりでした。

——どのくらいの頻度で行っているのですか。

坂巻 年間二十二回です。模試や諸行事を除くと、この二十二回が目一杯なんです。一、二年生は英数国を中心に補習授業をやっています。一年生は強制ではないのですが、全員参加しています。二年生もほとんどの生徒が

れなら学内に設けたらどうかという発想からです。この「高松塾」では同窓会の方々、P

参加しています。三年生は対外模試が中心になります。原則として土曜日の午前中の三時間です。

## 母校で後輩たちに教える喜び

——先生方が大変ですね。

坂巻 本当に、皆さんには精力的に取り組んでいただいています。外から来た先生は「なんていう学校だ」と言いますね。先生方が燃えていますから、もう負けてはいられないんですね。遅い人は夜の八時、九時まで学校に残っていますから、大変だなとは思っています。ですから先生方には、勉強の意欲のある生徒に情熱をもって教えることによっていい思い出をつくってあげて

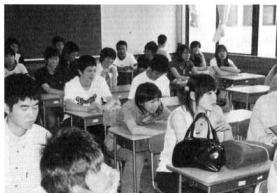
燃えさせるものは何なのでしょか。

坂巻 一つには、教職員にこの飯田高校の卒業生が多いということがあります。今、六〇名の教職員のうちの三一名が本校の卒業生なんです。こういう学校も県下にはほとんどないですね。私もそうですが、母校に来て後輩を教えることができるなんて、教師冥利に尽きますよね。

——先ほど学内を見せていただきましたが、屈託がなく明るく意欲的な子供たちが多いですね。やがてこの子供たちが進学して東京などに出てくることになります。首都圏にも多くの先輩たちがおります。校長先生の方から、要望なり期待することがございましたら、おっしゃってください。

よ、とお願いしているんです。子供たちが燃えているから先生方が燃える。先生方が燃えるから、生徒たちも燃える……。今、本当にそれがうまく回転していると思います。——そこまで先生方を

坂巻 先輩、後輩というつながりができればいいですね。気軽に声をかけてもらったり、また、中央の情報を生徒たちに送ってくれたりというパイプができればありがたいですね。とくに職業の選択をするときには、人生の先輩のアドバイスは何にもまして説得力があると思いますから……。諸先輩方とのつながりを強くして、皆さんに喜ばれる学校づくりをしていきたいと思っておりますので、今後とも、よろしくお願いいたします。



ホームルームのひとつ